活用の検討経過

学校名		旧　　長丘　　小　学校
廃校年月		令和　2　年　3　月
検討開始の背景	検討の開始時期	令和　2　年　4　月
	検討開始の契機	☑ 政策方針　☐ 地域要望　☐ 財政負担軽減 ☐ その他　（　　）
	廃校時点の課題	☑ 管理コスト　☑ 老朽化　☑ 防犯 ☐ その他　（　　）
検討体制	検討主体	☑ 庁内　☐ 外部検討会　☐ 民間委託
	庁内部署の関与	☑ 総務・財政・管財　☑ 企画　☐ 商工・観光 ☐ 健康・福祉　☐ 教育・文化　☐ 公民連携 ☐ その他　（　　）
	外部専門家等	☐ 有り　☑ 無し
検討プロセス	検討期間 （開始～決定）	約　1　年
	検討した活用案	子育て関連の施設及びそれに付随した他の機能を持った施設
	検討の主なステップ	サウンディング調査や市民からの意見募集を行ったが、意見が少なく判断材料に欠けたため、改めて庁内で検討した結果、廃校小学校の利活用方針案について決定した。
	最終的な活用案に至った理由	活用案も含めたプロポーザル方式での事業者選定を行い、本市のコンセプト及び地域の声と合致したため。

地域住民等の意見の把握・反映	住民への情報提供	☑ 広報　☑ 説明会　☐ 回覧等 ☐ その他　（　　）
	意見収集の方法	☐ 説明会　☐ ワークショップ　☐ アンケート ☑ その他　（　サウンディングや区長への説明　）
	参加者の範囲	☑ 地域住民　☐ 卒業生　☐ 関係団体 ☐ その他　（　　）
	主な意見・要望の内容	公共施設として残してほしいという要望が多かった。引き続き、子どものための施設としてもらいたいという意見も多かった。
	意見に対する対応	校舎を南北に割り、片方は子育て支援センターとして運営。もう一方は指定管理の自主事業エリアとして開放し、プロポーザル方式により自由な活用提案を求めた。
	合意形成において工夫した点	地域の区長と密に連絡を取りながら、事業を進めた。
公共施設として転用	公共施設での活用を選択した理由	地域からの公共施設として残してほしいという要望が多かった。引き続き、子どものための施設としてもらいたいという意見も多かったことから、公共施設として活用した。
	運営形態	☐ 直営　☑ 指定管理　☐ 委託 ☐ その他　（　　）
	条件で重視した点	☐ 契約価格　☑ 活用形態　☐ 事業期間 ☐ その他　（　　）

○HUBLIC NAKANO



